

NPO K's Point

第8回 運営会議（総会）

開催日：2019年5月18日（土） 午後12時30分～12時50分

議長：森本 武（NPO K's Point 代表）

司会・書記：伊藤 あゆみ（NPO K's Point 事務局長）

『NPO K's Point mission（目的）』（p.1）

【報告事項】

1. 2017年度収支報告（p.2）
2. 2019年度からの改変事項の報告（p.3）
3. 2019年度活動計画（p.4）
 - ・事業別年間計画
4. 活動報告
 - ・2017年度後期／2018年度前期（pp.5-8）

NPO K's Point
mission

目的

J. クリシュナムルティの思想研究をとおして、思考に依存しない生き方の可能性をさぐり、人間のいだけ不安の軽減、解消の実現をはかる。

より具体的には、「今」という絶対的現在を曇りなく生きる知性の存在を検証し、その成果を種々の活動、媒体をとおして広報する。

- 1. 本会は、一定の目的をもった慈善事業を営む資源を確保するため、営利事業にも節度をもって取り組む。**
- 2. 目的の実現と手段は直結しているので、手段としての営利事業の取り組みにおいても、常に目的の内包する意義を逸脱しないよう細心の注意を払う。**
- 3. 組織的成熟にむけて短中期的に構想するが、長期の見通しはもたない。**

1. 収支報告

2017年度 <第7期> 収支報告 (2017.6.1-2018.5.31)

■ 収入の部

勘定科目	実績	(参考) 2016年度実績
イベント事業収入 徴収したイベント参加費・講演料・「Kの生活塾まとめ払い」など	211,820	121,800
会費収入 年会費	155,600	128,600
出版事業収入 出版物の売上げ	229,162	163,398
相談事業収入 「対話プログラム」の収益	0	0
寄付金収入	0	400
雑収入	0	0
[合計]	596,582	414,198

■ 支出の部

勘定科目	実績	(参考) 昨年度実績
イベント事業費 会場使用料・交通費・備品使用料など ※飲食代は含まず	205,688	198,333
出版事業費 出版物発行にかかる費用	402,487	156,353
相談事業費 「対話プログラム」にかかる費用	0	0
管理運営費 書籍の発送料・ウェブサイトの維持管理費（通信費）	3,395	3,745
雑費	6,205	5,000
[合計]	617,775	363,431

注：スタッフへの給与、事務経費は含まない。

2. 2019 年度からの改変事項の報告

■定款の変更事項について

理事制度を廃止し、K's Point には、会長 1 名、監事 1 名、事務局長 1 名を置くこととする。

■研求センター開設について

2019 年 6 月より、K's Point の活動拠点として下記所在地にて「K's Point 研求センター」を開設する。K's Point の事務所として、そこに集う者の対話の場として、また、予約制の開放日をもうけて蔵書を読んだり借りたりできるライブラリーとしても機能する。

[K's Point 研求センター]

〒617-0004 京都府向日市鶏冠井町祓所 25-1 コーポーション 209 号

■研究員制度について

必要に応じて研究などの活動をサポートする存在として、研究員を任用する。出版物執筆時の資料書籍のパソコン入力や、論文作成時の協力者として位置づける。原則任期 1 年間（再任可）、無給での依頼となるが、主催イベント時の参加費が割引かれる。

■ウェブサイトのスマートフォン対応について

当会のウェブサイトを、スマートフォン表示に対応させ、より多くのひとに閲覧してもらうことを目指す。

■各活動事業の改編点

・新たに「K's Point English Class」を開設 **学習事業**

2019 年度より学習事業を開始する。2 クラス構成で、Basic English をもちいて基礎英語を学ぶ「Basic English 入門クラス」と、クリシュナムルティの原文を読み解き、その内容を議論する「クリシュナムルティテキスト講読クラス」を設置する。

・相談事業の拡充 **相談事業**

これまでの「対話プログラム」は、「生き方修理相談」に名称を変更する。相談料を見直し、相談の場も基本的には研求センターを利用することとする。

・トークイベントの再分類と、参加費の見直し **イベント事業**

「K の生活塾」として年度内に 4 回開催していたものは「K's Point 生活塾」に改める。これまでの「K 語・観察会」や「Tea Party」等の企画も、今後は一テーマとしてすべてこれに含む。

また、会員以外も参加できる「K's Cafe」は次年度より開催回数を増やす。

「探求の会」、「講演会」は現行どおり継続する。

・会員名称の一部変更と、年会費減額希望者の割引について **会員事業**

特別会員（年会費 10,000 円）は「サポート会員」へ名称を変更する。

支援会員と学生会員の名称は廃止し、今後は一般会員に含む。表記「一般会員（年会費減額制度利用）」、「一般会員（学生）」とする。

3. 2019 年度 活動計画

事業別年間計画

【イベント事業】

年度内に以下の行事を予定（回数はめやす）

トークイベント

- ・ K's Cafe : 2 ～ 3 回 / 月
参加者がテーマを決める対話の場
- ・ K's Point 生活塾 [会員限定] : 1 ～ 2 回 / 月
K's Point がテーマを提供する対話の場
- ・ 探求の会 [会員限定] : 2 ～ 3 回 / 年
- ・ 講演会 : 2 回 / 年
- ・ K's Point 以外が主催するイベント : 1 ～ 2 回 / 月

English Class

- ・ Basic English 入門クラス : 2 回 / 月 (全 24 回)
- ・ クリシュナムルティ講読クラス : 2 回 / 月 (全 24 回)

【出版事業】

文庫本の出版 : 1 冊

その他書籍の出版 : 1 冊

【その他】

新しいコラム『脱思考依存の幸福論』(仮)を、月に 2 回の更新をめやすに発表する。
(ウェブサイト、Facebook)

現在公開している、Digital News Letter 「insight」は終了する。

4. 活動報告 2017 年度後期 / 2018 年度前期

■ 2017 年度 後期 (2018.1.1-2018.5.31)

2018 年 1 月 20 日 Kの生活塾 第 35 回「**古い**」(嵯峨美術大学 / 京都・右京区)

「成長」には、希望や期待がある一方、「古い」には、悲観や絶望がまわりついている。共に、時間の進展にともなう変化を意味しているだけなのに、このような対立的な受容が存在するのはなぜか。おそらく、老いをめぐる問題の多くは心理の問題であり、真実の姿の反映によるものではないとおもえる。

1 月 26 日 トーク iTohen 夜の学校 「**「活発な死」と「不在の死」**」

(iTohen Books Gallery Coffee / 大阪・中崎町)

生のエネルギーへの過大な期待をもつ創作者は、なによりも、死を嫌悪と恐怖の対象としがちです。日常を淡々と生きる家庭人は、死の突然の出現をかすかに予想しながら、死を封殺しているのです。あなたが死を小馬鹿にしている超越的詩人なら、国家的な規模の新聞やテレビ、経済界はもちろん、学界や政界も意識の外に追い出し、朝の日の出と夜の星だけを信頼しているはずですよ。

2 月 24 日 Tea Party 「**この世のおつとめ**」(嵯峨美術大学)

「ごころうさま。誰が誰に「ごころうさま」か。

たしかに、生きているのは苦勞です。大事なおしごと、があってこそその人生なんだろうがね。

3 月 11 日 講演会 「**シャンカラ&クリシュナムルティに学ぶ「人間」という幻影**」

(マニホージュ / 神奈川・秦野市)

3 月 31 日 トーク **光への探求 with K's Point #3 光で生きる**」(EDANE / 大阪・住之江区)

上空に投げたボールはかならず地面に落ちてくる。子供は日に日に老いていく。

一方、光を生命の本源とした世界では、何も変わらない。

この真理を土台に安心の時を生きることが出来る。

4 月 30 日 講演会 『**天職に生きる。**』(大阪市立総合生涯学習センター / 大阪・梅田)

なにをして食っていくか、と職業をえらぶのは、まちがいです。生きたいように生きる。その決意から、天職は決まります。天職は、金と名誉を目的化しない直観から、瞬時に、見出されます。天職は人生そのものであり、もっともあなたを幸福にしてくれる生き方なのです。

5 月 5 日 トーク 『**創造する力**』(BOOKSHOP Kasper / 神奈川・葉山)

みずからも創造された存在である人間が、創造する力を与えられていることは大きな喜びであります。人間の芸術をうみだす力の源泉を、すでに持っている知識や体験に縛られずに、芸術として表現されたモノの在りのままの姿とエネルギーを見つめながら、どこまでもどこまでも深く探求してみましょう。

■ 2018 年度前期 (2018.6.1-12.31)

- 6月9日 トーク 光への探求 with K's Point 「#4 瞑想」** (EDANE)
座法、呼吸法、マントラなどの技法をもたない、時も場も選ばない瞑想について、J.クリシュナムルティの語る言葉を共に探求するとしましょう。
- 7月27日 トーク iTohen 夜の学校『ひとは、なぜ自己表現したいのか』**
(いとへん Books Gallery Coffee)
私が、ここに生きているという事実を、存在そのものだけでなく、改めて、何かの手段や媒体をとおして、なぜわざわざ表現しなければならないのでしょうか。私の存在そのものの実在性と、それが黙っておれない欲求の関係を、広く受け入れられた知識によらず、「素手」で探求してみしましょう。
- 8月4日 トーク 小さなお話し『天職は、職を選ばず、時も選ばず、包括的生を生きる営み』**
(長谷川書店 水無瀬駅前店 / 大阪・水無瀬)
賃金を得るための仕事が、人生全体を支配してしまうとしたら、ひとは、人生を金で買う行為に奔走しているだけになります。人生丸ごとを仕事とみたときに、生きること自体が天職になるのです。
- 8月10日 トーク オメタイ人になるトークサロン『今』** (株式会社 テンネット / 大阪・肥後橋)
ひとは、真相としては、常に「今」だけを生きている。「今」だけが現実に関われる唯一の機会だから。しかし、思考が過去を「今」に持ち込み(再生)、未来を混入(空想)させるので、「今」を混濁させる。思考の雲を晴らし「今」に快晴の空を取り戻そう。
- 8月11日 講演会『ひとは、みな、すでに天職を生きている』**
(ホホホ座 下南田町集会所 / 京都・浄土寺)
会社で働いているとき、家で家事に追われているときはもちろん、ひとり、カフェでくつろいでいるときも、バスや電車を待っているときも、誰かと言い争っているときも、あなたは天職を生きているのです。誕生と同時に、職業は「人間」と決まったのです。人生丸ごと、どう生きるか、どう楽しむか、それこそが天職仕事術の課題なのです。
- 8月25日 トーク 光への探求 with K's Point 「#4 芸術の先に見えるもの」** (EDANE)
芸術は誰にも開かれています。視点はそれぞれですが、そこには目に見えない大きな力の関わりがあることも見落としてはいけません。EDANE での展示作品に触れながら「芸術」への考察を深めていきたいと思います。
- 9月15日 講義 芸術学概論—J.クリシュナムルティの思想に学ぶ創造性の教育** (嵯峨美術大学)
「第1回「創造性」の定義」
意味・内容がほとんど示されず、美辞、装飾語としての乱用が目立つ「創造性」の語義を問い、その価値を考える。
- 9月17日 K's Cafe 「#002」** (カフェ英國屋 阪急17番街店 / 大阪・梅田)
- 9月22日 講義 芸術学概論—J.クリシュナムルティの思想に学ぶ創造性の教育** (嵯峨美術大学)
「第2回 J.クリシュナムルティの思想(1)比較しない教育」
比較は、思考の好む性向であるから、分析や概念作用に不可欠の作業となっているが、リアリティーを粉々に断片化する。“生の全体性”は把握できない。

- 9月29日 講義 芸術学概論—J.クリシュナムルティの思想に学ぶ創造性の教育（嵯峨美術大学）
「第3回 J.クリシュナムルティの思想(2) 自立によってひとは関係づけられる」
 神智学教団のリーダーから孤立無縁の哲人となったKの意識変革をたどりながら、「個の自立」の緊急性を検証する。
- 10月6日 講義 芸術学概論—J.クリシュナムルティの思想に学ぶ創造性の教育（嵯峨美術大学）
「第4回 比較の教育がもたらしたもの(1) 記憶」
 一般に個々人の学習は文化という集団の記憶の仕掛け（データベース）を維持している。創造の対極にある記憶の大きく、見えづら影響を考える。
- 10月8日 Kの生活塾「第38回 方法を持たない学び」（嵯峨美術大学）
 何を学ぶにしろ、世に指南書はあふれている。受験塾、教習所、筋トレ・ジム、料理教室など、エキスパートのいる場を見いだすのも難しくない。方法への依存に慣れたひとたちは、「やり方」の修得何よりもめざすのだ。生きること全般に、方法の模索が意識されがちだが、それで学びは深まっているのだろうか。
- 10月13日 講義 芸術学概論—J.クリシュナムルティの思想に学ぶ創造性の教育（嵯峨美術大学）
「第5回 比較の教育がもたらしたもの(2) 全体性」
 ライブニッツのモノド理論、ボームの量子論、また古代インドのヴェーダーなどの全体性についての見解を学びながらJ.クリシュナムルティの「全体性」を明らかにする。
- 10月20日 講義 芸術学概論—J.クリシュナムルティの思想に学ぶ創造性の教育（嵯峨美術大学）
「第6回 思考を考察する(1) 疑問には解答が含まれている」
 思考という機能の限界（概念的／実用的限界）を考察しながら、それが世界にもたらしている有用性と犯罪性を考える。
- 10月26日 トーク iTohen 夜の学校「「比較しない」とスッキリ分かる」
 (いとへん Books Gallery Coffee)
 私が、ここに生きているという事実を、存在そのものだけでなく、改めて、何かの手段や媒体をとおして、なぜわざわざ表現しなければならないのでしょうか。
 私の存在そのものの実在性と、それが黙っておれない欲求の関係を、広く受け入れられた知識によらず、「素手」で探求してみましょう。
- 11月10日 講義 芸術学概論—J.クリシュナムルティの思想に学ぶ創造性の教育（嵯峨美術大学）
「第7回 思考を考察する(2) 意見をもたずに考える」
 「今」をもたない思考は常に過去としてある。思考は知能(mental ability)に依存するが、「今」の把握には知性(intelligence)の作用が必要になる。このKの中核思想を考える。
- 11月17日 講義 芸術学概論—J.クリシュナムルティの思想に学ぶ創造性の教育（嵯峨美術大学）
「第8回 時間と創造」
 過去でしかない思考が生み出すものから新しいものが生じるだろうか。
- 11月24日 講義 芸術学概論—J.クリシュナムルティの思想に学ぶ創造性の教育（嵯峨美術大学）
「第9回 芸術における創造性」
 芸術作品の市場における評価や批評家による評価と創造性の関係を考察する。

2018年11月29日 トーク オメタイ人になるトークサロン『リアルを探求する』（株式会社 テンネット）
嘘か真（まこと）か。夢か現実か。実は、厳密に探求するほどに、その区別は簡単ではない。
嘘のような現実、現実的な嘘が混在している世界に、われわれは生きているのだ。うかつにも嘘にだまされ、驚くべきエネルギーを無意味な行為に浪費しているのかもしれない。

12月1日 講義 芸術学概論—J. クリシュナムルティの思想に学ぶ創造性の教育（嵯峨美術大学）
「第10回 科学における創造性」

精緻な観察と高度な思考をとおして新事実の発見をめざす科学の手法において創造性とは何を意味するのか。

12月8日 講義 芸術学概論—J. クリシュナムルティの思想に学ぶ創造性の教育（嵯峨美術大学）
「第11回 光としての意識：「自らの光となる」」

仏陀は自らの灯明を唯一の師とするように説いた。Kも人間の生の核となる光を本質的存在原因とみた。光と創造性の関係を具体的な事例をとおして考える。

12月8日 講演会 生き方さぐるジグザグ交流会「「私」とは何か」

(NPO 法人 神戸オレンジの会 / 神戸市兵庫区)

生きているのは「私」。当然のこととおもいながら、「私」の実像、実体を、あなたはどれほど理解しているでしょうか？喜び、悲しみ、悩んでいる場としての「私」のことを探求してみましょう。

12月14日 トーク 小さなお話し会「非医学的健康論」（長谷川書店 水無瀬駅前店）

なんとなく感じる痛み、かゆみ、もたれ、その他の微かな不調を、まずは自分の生命圏（心身）で生じている「事故」、「事件」として認識できるひとは、知識のひとはありません。
肝臓がどこにあるのか、腎臓が何個あるのか知らなくても、「私」を形成している生命エネルギーとの非言語的対話に少しでも関心をもってみましょう。やがて、その対話に喜びを見出せるひとなれば、大本の生命供給源の存在が一点の曇りもない白い歓喜の光であると感ぜられることでしょう。

12月15日 講義 芸術学概論—J. クリシュナムルティの思想に学ぶ創造性の教育（嵯峨美術大学）
「第12回 教育の構造化（学校の問題）」

教育を容れる学校という装置を、ハード面、ソフト面から観察する。

12月22日 講義 芸術学概論—J. クリシュナムルティの思想に学ぶ創造性の教育（嵯峨美術大学）
「第13回 集合知と個別知」

ひとかたまりの文化は個の連携において形成されているが、真実との距離という視点から二つの知のモードの違いをみる。

